

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375900244
法人名	社会福祉法人幡豆福祉会
事業所名	グループホームしはと
訪問調査日	平成19年 9月29日
評価確定日	平成19年11月19日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2375900244
法人名	社会福祉法人幡豆福祉会
事業所名	グループホームしはと
所在地	幡豆町西幡豆字池下66-1 (電話)
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成19年9月29日

【情報提供票より】(平成19年9月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年4月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算6.68人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1階建ての ~1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,455 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 約600 円			

### (4) 利用者の概要(9月4日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2	要介護2		2	
要介護3	1	要介護4		3	
要介護5	1	要支援2		0	
年齢	平均 84.4歳	最低	66歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳永外科、内科
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員の関係はとても良好であり、職員は穏やかな態度で入居者のペースに合わせてゆったりと一人ひとりを支援している。食事に長時間必要とする方への気配りなど、個別の対応を常に心がけている。職員は「優しさ、心温かさ」を持ち支援している。ラジオ体操や馴染の歌、カラオケなどを毎日の運動として楽しみながら全員が参加できるよう支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で「居室へ通じる廊下の幅員」について改善の取り組みを検討しており、スペースの関係で現状維持であるが、「脱衣所の手すり」の取り付けを検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は全職員で話し合い検討しており、改善への意義を理解している。できるところから改善を行う前向きな姿勢で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月1回開催しており、前回の検討課題について、経過や結果報告が行なわれ、継続的な話し合いがもたれている。入居者が地域に密着した生活が送られるようにサービスの向上にむけた取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に職員から話しかけ、最近の暮らしぶりなど伝えながら、家族からの意見が聞き出せる雰囲気作りを心がけている。面会の少ない入居者には行事日程やホームの暮らしぶりや、しはとだより、金銭管理の報告を郵送や電話で報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや学校、保育園等の行事に参加している。保育園との交流は継続的に行なわれており、散歩コースに取り入れている。今後、より深く地域に密着して行くために、町内会に入ることなどを検討し、地域との交流を深めていくことが期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりの生活を「その時、その時を大切にしながら生活の継続が出来るように」という理念のもとに支援が行なわれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は会議やミーティングなどで理念の確認をしており、日々実践を心掛け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや学校、保育園の行事等に参加し、散歩コースに保育園を取り入れて、地域との交流が深められている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価にかかわり、外部評価の結果について話し合いを持ち、改善に向けて検討し実践に向け、取り組んでいる。前回の外部評価に対する改善計画は立てられていない。	○	職員全員が、自己評価や外部評価の意義を理解しているので、改善計画を立ててホームの質向上への取り組みの検討が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、運営推進会議に家族や包括支援センター、地域代表、市町村関係者が参加して、検討事項や結果報告が行なわれサービスの向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へのボランティアの要請や車椅子の貸し出しの協力、研修情報を得るなど連携し、サービスの向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の日程やホームの生活の様子、「しはとだより」、金銭管理の報告をしている。必要に応じて、郵送や電話連絡で報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、職員から声をかけ、気楽に話しあえる雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がやむを得ない場合は、入居者に影響がでないように担当職員の配慮をするなど、工夫と努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、技術向上のための研修に積極的に参加している。月1回の勉強会も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や相談委員会に参加し、情報や意見の交換の機会をもち、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心して納得した上で、サービスを利用するために入居者と家族の状況を調整し、そのための相談の時間を充分に取っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で本人の「出来ること、得意なこと」の個性が生かされ、一人ひとりの能力が維持できるよう支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事時間の制限や行事への参加は強制せず、本人の希望や思いを大切にすること、職員間で情報を共有している。一人ひとりに関心を払い言葉や表情などからも意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者に担当がおり、意見や気づき等、きめ細かな情報が伝えており、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態の変化があれば、その都度計画の内容について話し合いが行なわれ、介護計画の見直しがされている。月一回の見直しもされている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養の集団リハビリに参加したり、入居者の高齢化や身体レベルの低下に伴い、理学療法士の指導を受けながら身体の無理のないよう支援を行なっている。また、通院の送迎など柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診について、家族の協力の下で継続できるように支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について早い段階から家族との話し合いがもたれている。方針は決まっており、職員全員は方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に尊敬の気持ちを持って接しており、職員はプライバシーに配慮している。個人情報保護を理解し、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりを大切に、「食事を並べる」「買い物したい」など、その人にあつた時間と空間、状態や思いに配慮し、柔軟な対応で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付け、入居者の身体状況に応じて「出来ること」「やりたいこと」に対応できるように支援をしている。誕生日の献立に入居者の意見も取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後から夕食前に長い時間をかけた支援が行なわれている。順番は決めておらず。基本的には一人入浴であるが希望があれば二人で入浴もでき、楽しむことへの支援されている。毎日入浴できる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の身体状況を見ながら、歌やカラオケ、編み物、喫茶店など張り合いや喜びのある生活の支援をしている。また、役割の楽しみのために洗濯たたみや掃除、食事の後片付け等の参加へ支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外へ出掛けられるよう支援している	買物や散歩、喫茶店や外食等、出来るだけその人の希望に応じ、戸外へ出掛けられるよう支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵をかけないことが当たり前の支援として行なわれている。外へ出掛けられた時は本人が納得しホームへ戻れるように職員が支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災非難訓練を行なっている。非常食として水や赤飯等が保管しており、定期的な管理が行なわれている。全職員は、緊急誘導の手引きを把握しているが、夜間の対応について見直しと、地域の協力を得ることへの働きかけが必要とされる。	○	夜間の対応や町内会に入ることなど、地域の方々の協力と理解が得られるような取り組みの検討が期待される。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は記録し、量や栄養のバランスを個別に検討し、不足のないように支援が行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間や廊下等に季節の絵や写真などを飾り、玄関先にはプランターに花が植えられ、生活感や季節感を採り入れている。窓は大きく明るく、テレビの前にはソファが置かれ、気楽に横になれる居心地のよい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や写真、馴染みの品等持込んでもらい、個々に応じた居室作りの支援がされている。		

※  は、重点項目。